

小倉都心部における 公共空間を活用した賑わいづくり

北九州市 建設局 総務課 主任 おさふね りょうた **長船 亮太**

1. これまでの小倉都心部のまちづくり

北九州市は、昭和 38 年に 5 市が合併してできた人口約 94 万人の政令指定都市です。対等合併ということもあり、都市の一極集中を避けて旧 5 市の均衡発展のまちづくりを進め、市民の生活環境は向上しました。しかし、その反面、都市の顔づくりが遅れたため、昭和 63 年 12 月に策定した、市の基本構想である「北九州市ルネッサンス構想」の中で、JR 小倉駅周辺を都心部と位置付け、魅力的なまちづくりや社会基盤の一新を図ることとしました。

事業は、「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」計画により、小倉駅と都心部を流れる二級河川である紫川周辺において官民が連携し、治水対策、親水整備、交通渋滞解消、歩行者の快適性向上を一体的に行う整備を行いました。

内容としては、北九州市に本社を置くデパートの（株）井筒屋と北九州市が連携して、護岸と商業施設が一体となった施設を建築しました。建物の地下には、紫川の中を直接覗くことができる河川観察窓を設置した「水環境館」、1・2 階にはレストラン街「紫江's」(しこうず)が営業しています。

その他にも、勝山公園やホテルと河川の一体整備、大型複合商業施設の「リバーウォーク北九州」、文化施設である「小倉城庭園」の開園や「松

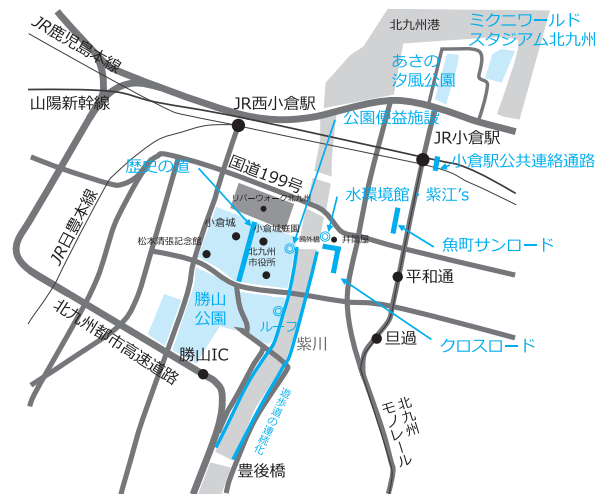


図-1 北九州市 小倉都心部位置図

本清張記念館」の開設など、河川や公園、周辺の市街地再整備を一体的に行いました（図-1）。

本稿では、これらの整備された社会基盤を生かして、小倉都心部において取り組んできた「公共空間の魅力向上に資する公共事業」及び「官民連携による公共空間を活用した賑わいづくり」について紹介します。

2. 近年の小倉都心部における 公共空間の魅力向上

平成 29 年 2 月、JR 小倉駅の北側に「ミクニワールドスタジアム北九州」がオープンしたことを契機に、小倉都心部の更なる集客を図るため、人

が集まり滞在時間を延ばす仕掛けとして、「公共空間の魅力向上」や「歩いてみたくなる歩行者空間の創出」を目標に掲げ、整備を進めています。

これまでに道路事業として、小倉駅の公共連絡通路にフォトスポットや展示スペースを整備し、小倉駅のペDESTリアンデッキには休憩用のベンチを設置しました。その他に、夜間景観を向上させる道路照明の整備や、歩行者系サインの充実を図りました。

公園事業では、北九州市のシンボルであり観光の拠点として、多くの市民や観光客に親しまれている小倉城天守閣のリニューアルにあわせて、天守閣前広場等の整備を行いました。また、紫川沿いから敷地内に小倉城を擁する勝山公園では、ソメイヨシノだけでなく、様々な種類の桜を植え、早春から晩春まで桜の花を楽しむことができるようにしました。

河川事業では、紫川において、高水敷遊歩道の連続化やベンチの設置、イベントを観覧しやすいように水上ステージ前の大階段へのルーフ設置、橋梁や水辺のライトアップ、水環境館のリニューアル等を実施しました（写真－1）。



写真－1 上段：小倉駅1階東側公共連絡通路のフォトスポット及び小倉駅休憩スポット
下段：こくらさくらまっぷ及び大階段へのルーフ整備

3. 官民連携による公共空間を活用した賑わいづくり

行政主体のインフラ整備のみでは賑わいや集客に限界があるため、これまで整備してきた公共イ

ンフラなどの既存ストックを民間が活用することで更なる賑わいの創出を図ることとしました。

(1) エリアマネジメントの民間開放（国家戦略道路路占用事業）

平成28年4月、内閣府から国家戦略道路路占用事業の認定を受けて道路法の規制を緩和し、市が共催しなくても民間団体主体による道路路占用が実施できるようになりました。

現在、市内7箇所の道路が認定され、各地でまちづくり団体により飲食などの便民施設を設置し、賑わいを創出しています。小倉都心部の魚町サンロード商店街では、道路上での飲食や休憩施設を提供することで、新たな賑わいが生まれ、相乗効果として通りの通行量や沿道の商業店舗の売り上げが増加しています（写真－2）。

また、紫川沿い井筒屋前の道路（クロスロード）においては、イタリア車の展示やイタリアの街角のようなオープンカフェの実施、コーヒーやパンフェア等、各回テーマを決めたイベントの開催により、平成30年度は約67万人の来場者がありました（写真－3）。



写真－2 民間開放の様子①魚町サンロード



写真－3 民間開放の様子②クロスロード

(2) 公募設置管理制度 (Park-PFI) の導入

平成 30 年 7 月、勝山公園鷗外橋西側の橋詰広場では、全国で初めて公募設置管理制度 (Park-PFI) を活用した施設整備を行いました。便益施設として、民間事業者により「珈琲所コメダ珈琲店」と、公園利用者が店舗に入らずとも自由に使える多目的トイレが整備されました。また、店舗周辺には便益施設として機能を十分に果たせるように、パブリックスペースにテーブル・ベンチ、パーゴラ等が設置されています。

さらに店舗は、季節やイベントに合わせた店舗装飾を行うなど、公園利用者の利便性の向上や、新たなサービスの提供による公園の魅力向上、賑わいの創出を図り、市民の憩いの場として利用されています (図-2)。

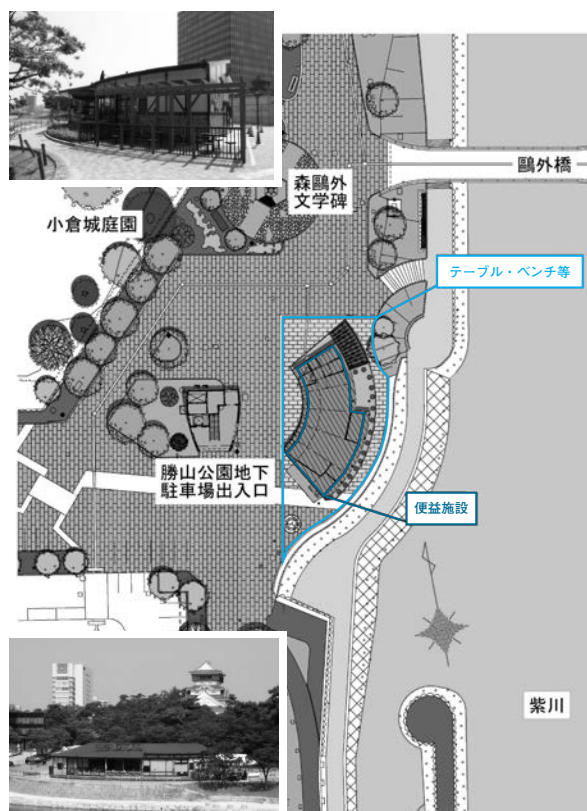


図-2 Park-PFIにより整備した便益施設

(3) 公園でのキッチンカーによるおもてなし

民間主体による公園の新たな賑わいづくりを検討するにあたり、地域のまちづくり団体や企業を交えて、公共空間の活用方法を探る勉強会を開催しました。そして、この勉強会のメンバーが主体となり、平成 27 年 11 月から 28 年 9 月まで、勝

山公園において、複数のキッチンカーにより飲食物をオープンカフェ形態で販売する取り組みを「カナル・ヴィオラ」(イタリア語で「紫の運河」)と名付けて、社会実験を実施しました(写真-4)。

その後、運営体制の検討等を重ね、平成 28 年 11 月から、複数の事業者で組織する「北九州キッチンカー実行委員会」を発足し、キッチンカーによるオープンカフェ「カナル・ヴィオラ」が始まりました。

現在、平日のランチ帯を中心に、小倉城の「歴史の道」などにおいて、テーブルやイスの休憩施設を設置し、観光客や来訪者にでき立ての温かい料理を提供しています(写真-5)。

平成 30 年度の実績としては、営業日数 172 日、延べ客数約 20,000 人が利用しています。公園利用者や観光客、近年増加してきているインバウンド客への“おもてなし”を継続的に実施していることが評判となり、市内各地のイベントや事業からの出店依頼が増え、市内の様々な場所での賑わいづくりに貢献しています。



写真-4 カナル・ヴィオラ 社会実験の様子 (勝山公園鷗外橋西側橋詰広場)



写真-5 カナル・ヴィオラ 本格実施の様子 (小倉城 歴史の道)

(4) 民間活力の導入

本市のシンボル公園の勝山公園と、あさの汐風公園では、日常的な維持管理及び賑わいづくりのため、平成29年度から指定管理者制度を導入しています。平成30年度は、指定管理者の提案事業により、14種類のスポーツ等のイベントを160回開催して、新たな賑わいが創出されています。また、勝山公園大芝生広場内の管理事務所にて遊具の貸出を行っており、手ぶらで訪れて思いっきり体を使って楽しく遊ぶことができるため、多くの市民が利用しています（写真－6）。

リニューアルした水環境館では、新たに飲食可能な休憩エリアを設けており、子ども連れでも長時間の滞在が可能となり喜ばれています。また、指定管理者の提案事業として、紫川でのカヌー体験や川流れなどの体験活動のほか、カヌー、サップ、ボート、潜水士により、紫川に浮くゴミや沈む自転車等の清掃活動を行う「くいとめろ大作戦！～カヌー100艇出動！」が開催され、参加

者にとっては、体験活動を通じて川の大切さを知る良い機会となっています。

また、ラグビーワールドカップ日本大会の際、北九州市で事前合宿をしたウェールズ代表を応援しようと、昨年10月、水環境館内でパブリックビューイングを行い、普段利用していない人の集客を図るなど、館の利用促進が図られています（写真－7）。

4. おわりに

北九州市が整備してきた道路、公園、河川等のインフラを公共空間リソースとして、今後も民間事業者が有効活用していくことが本市の魅力向上や地方創生にもつながるもの、と考えています。

今後も、官民が連携した公共空間を生かしたまちづくりを進め、小倉都心部の一層の賑わいづくりに取り組んでいきます。



写真－6 スポーツイベントの実施状況
（勝山公園）



写真－7 上段：カヌー体験の活動状況
下段左：くいとめろ大作戦! のチラシ
下段右：パブリックビューイングの状況